

文化芸術による復興推進員（岩手県）

第2回連絡会議 要旨

日時：2月5日（火曜日）
13:30～16:30

場所：岩手県民会館 第2会議室

出席者

(岩手県推進員) 阿部武司（東北文化財映像研究所）・菊池和憲（岩手県民会館）
古賀東彦（(公社) シャンティ国際ボランティア会）
佐々木健（大槌町教育委員会）・澤内逸陽（宮古市芸術文化協会）
和田利男（釜石市教育委員会）
(助言者) 渡辺一雄（文化芸術による復興推進コンソーシアム）
(運営委員) 田澤祐一（(公社) 日本芸能実演家団体協議会）
半田昌之（(財) 日本博物館協会）
松本辰明（(社) 全国公立文化施設協会）
本杉省三（日本大学理工学部建築学科）
渡辺聡（(一社) 日本音楽著作権協会）
(全国組織推進員) 間瀬勝一（(社) 全国公立文化施設協会）
(オブザーバー) 米屋尚子（(公社) 日本芸能実演家団体協議会）
秋元庸生（(一社) 日本音楽著作権協会）
(文化庁) 土屋啓一（文化庁文化活動振興室）
(事務局) 大和滋・松野幹夫・伊藤美歩

開会の挨拶

1. 出席者紹介

2. 第1回復興推進員連絡会議から出た課題について 渡辺一雄アドバイザー

「第1回連絡会議において提起された課題の整理等について」参考メモを基に説明。配布資料には、○が岩手県、◎が宮城県、●が福島県の会議で発言されたものとされ、今日の議事、議題が効率的に進むようにアドバイザーにより分類されたものである。

・地域社会の復興

(1) 行政施策に関するもの (2) 被災者の生活の充実にに関するもの (3) 芸術鑑賞、祭りなど享受の機会に関するもの (4) 地方自治体同士、企業との相互支援・連携に関するもの
上記の中から4つに細分類できる。

・芸術文化活動の在り方

(1) 芸術団体等による支援活動 (2) 市民による芸術文化活動 (3) 民俗芸能の保存、継承、記録保存

上記の中から3つに細分類できる。

・文化施設に関するもの

・各自の活動分野により多様な内容であり、整理する上で「何を基準とするか」が困難であり、「復興推進における芸術文化の役割等」という共通のテーマを議論する上では、いくつ

かの基本的事項について共通理解が必要である。

・また、他に課題としては、以下の4つが挙げられる。

①震災以前からの課題が、被災を契機に顕在化したもの

②未曾有の規模の被災状況から、人間社会・文化の根本的在り様に問いかけるもの

③短期、中期、長期の時間軸で仕分けて検討すべきもの

④Feasibility（実現可能性）を基準に吟味すべきもの

上記が混然となっている→ 議論がかみ合うための前提事項が何か探る必要がある。

3. 被災地自治体の復興計画等に記載された文化芸術の復興に関する内容および協議

澤内

・復興計画はハード整備、生活インフラ等に重点が置かれている。文化関連では道具などの補修は進んでいるが、場所確保の問題などは、これからである。復興計画といった場合には、もう少し先の、次のところをちょっと入れて欲しかった。

古賀

・私たちの活動は、図書活動を中心に行っているため、行政との絡みでも、図書館がどうなるのかということが中心となる。

・当事者ではないので、復興計画等行政内部の議論に入っていくことは出来ない。

阿部

・民俗芸能を支援する計画はあっても取組みが少なくスピード感が感じられない。

・復興＝生活基盤。これを支えるのが民俗芸能という位置づけ。

・もっと民間レベルに支援が欲しい。精神的なケアに繋がるのは論議よりも実践である。机上の論議だけで終わっていると、だんだんそっぽを向けられると思う。

菊池

・県の復興計画は①～⑨項目に分かれているが、そのうち③～⑧は県民会館でも携わっている。

・県民会館のボイラーが40年以上たって、壊れたためやっとな改修されたが、文化活動に予算はついてこない。病院や福祉関連のインフラが優先である。しかし、計画はあるため、時間はかかるかも知れないが、将来的には、手をかけてくれると思う。

和田

・最大の課題は、被災地の生活をどうするかである。そうはいつでも現実には文化や伝統芸能に勤しむことができるよう支援する必要がある。

・復興計画は、復興計画と復興計画に伴う実施計画という形で構成されている。復興計画よりも実施計画に何を入れ込むかの方が重要なのではないか。

・復興計画は、被災した側の手当に目が行きがちであるが、内陸の被災していない地域との均衡の面にも視野を広げなければ、地域間格差が一層生じ問題となる。

佐々木

・基礎自治体には、「総合計画」（住民も参加して作るもの）として、まずまちが向こう10年どういう町にしたいのかという計画があり、その総合計画の象徴として町民憲章がある。元々、憲章に文化も謳っている以上掲載していることが当然である。

- ・予算を獲得するためには、政治力も必要であり、とにかく箱モノをつくったら、どんどん維持管理にお金がかかることは、明らかなことであり、その中で予算をどう獲得するかというのは、まさに政治の力といえる
- ・手法が違くと結果が違ってくる。どういうゴールを目指すかによって、道は幾つもある。行政機関は予算を持って様々なことを施策として実行できるので、すごく責任があるという認識を持ってほしい。

大和

- ・調査研究会の中では制度論も取り上げた方がよいという話も出ており、分析して報告書に掲載した方がよいという思いから議題に上げた。そこで、今後の実施計画に入れられるような上手な伝え方はあるか。

古賀

- ・山田町の計画には文化の記載がないという指摘もあるが、民間の動きとして“伝津館”の立上げ等がある。公だけでなく民間の動きにも関心をもち、後押しできるとよい。
- ・大槌に関しても、「おらが大槌」というグループがあって、まちづくりの事を考えようとワークショップを積極的に行っている。
- ・長のところへ計画書を提出して終わりではなく、計画を実現するプロセスが大切だ。

間瀬

- ・復興計画やマスタープラン（総合計画）が現実と合わなくなっていると感じる。復興計画からマスタープランの段階で、文化活動の支援について配慮をしてもらえる手はあると思う。マスタープランに明記されないと行政は動きづらいだろう。
- ・自治体には文化振興条例のようなものが欲しい。予算化していくためには、議会による承認が必要である条例をつくるしかないのかと思う。

本杉

- ・建築的な視点から、例えば文化施設を復興するにあたって、元に復旧することに対しては予算がつくが、改善に対してはないことが問題である。これからの日本の社会を考えれば縮小社会なので、先ほど施設維持にお金がかかるというお話でもあるように、将来を見据えた、生活復興のために何が必要か考えるべきではないか。
- ・新しい移転先においては、これまでのバックグラウンドが違う人たちが暮らしていこうとする中で、記録と記憶の拠り所を求める動きが強まると元に戻そうという動きに繋がる気もする。

和田

- ・マスタープランでも、復興計画でも記載の違いはあるが、全て網羅する形で入っているはずである。復興計画に記載がないことが諸悪の根源だというようになっているが、復興計画に記載がないから文化芸術が復興していかないというような考え方だとすれば、それはどうなのかと思う。岩手はこう、宮城はこう、福島はこうというような大括りではなく、個々の自治体の実情に合わせた別の角度からも少し検討しなければいけないことである。だから、復興計画の下にある、復興計画の実施計画、個別計画に文化や芸術の復興が如何に記載されているか、いないかのほうが大事である。

佐々木

- ・復興計画は、あくまで計画であり、計画通りにいかなければ見直すことも必要だ。住民の方々の声を含めて、「違う」「こうしましょう」という声をあくまで言い続けることが大事である。行政の人間というのは常にフィードバックしながら、どうなのかということを見直ししながら、計画を前に進めていくということを考えたならば、変えるべきところは変えていっておかしくはないと思う。

渡辺（一）

- ・コンソーシアムがここで得た成果について何が出来るのか正直自信がない。推進員の方がそれぞれの持ち場に帰られたときに今日の議題が役に立つのかどうかである。
- ・確かに文化芸術活動は、民間が力を持っていると従来から評価されてはいる。しかしながら、コンソーシアムとして我々が蓄えていかなければならない部分は、何なのかという問題意識に立った場合に、もう少し、行政レベルでの議論にも収斂しないとしない。

4. 文化芸術による復興推進活動としてふさわしい事例についての意見交換

大和

- ・調査研究報告書では、様々な文化芸術による復興の取組をなるべく多く紹介しようと、まずは、事務局レベルでリストアップをしました。皆さんから、こういう観点で、こういう問題について、ぜひ取り上げてほしいというご意見がございましたら、伺いたい。

《事務局資料の事例の説明》

古賀

- ・アーカイブに関連する参考となる事例として、先ほど伝津館のお話をした。山田町の田村剛一さんという方が、津波の被害を後世に伝えようと有志で運営をしている。それに先立ち、山田の津波の写真を集めた写真集を発行しようといった動きも出ている。
- ・山田町については社協（社会福祉協議会）も山田町の過去の写真、そして、今、どういう山田が好きなのかという写真を、コンテストのような形で町民や訪れた人たちから写真を集めている。
- ・それに絡めて、カメラ会社の協力のもと写真教室を行っている。この写真教室は、副次的な効果としては、男性の参加者が多い。なかなか仮設から出てこれないと言われている男性の方の参加も多かったという報告を受けている。

佐々木

- ・復興館では、民間の方々が写真を集める活動をしている。
- ・今はまだ震災特需みたいな感じで、やれ本を出せ、やれ何かしろとあるが、いつまでそれが続くのか、いつまで続けたらいいのかと言ったほうが正しいかもしれないが、本当は、もっと先のことを見据えた上で、次の一歩を踏み出さないと、息切れしてしまうという問題点も、見ていて気になる。
- ・遠野市の文化研究センターが、被災地の博物館を回って、レスキュー活動を行っている。

和田

- ・釜石市では、震災に伴って、各ご家庭から流出されたお写真やお位牌を全てお預かりして、昨年度は公開していたが、なかなか取りに来ない方がいる。これは、データベースにして、いつでも見学できるようにしている。

- ・個人の方々が震災、津波の映像記録、あるいは写真を持っておられ、これも全部お預かりして保管をしている。それらをひとまとめにして、どこかの段階で公開出来ないだろうかと思っている。
- ・復興にあたって、日本全国、世界中から頂戴したのものも保管しており、現在、様々な人に、ご協力いただきながら釜石市内の展示館の開館を検討している。この地域は、第二次世界大戦で艦砲射撃など辛い出来事が過去にもあり、復興の展示館ということでそういった資料も網羅できるか検討をしている。

佐々木

- ・大槌町も文献上は、明治の津波も、昭和8年の記録も残っていたが、今回の津波で全て流されてしまった。ですから、現物資料はもうないが、データや写真になっており、それをどう復元するかも別の意味で課題となっている。
- ・宮沢賢治（花巻出身および居住）の『銀河鉄道の夜』と柳田國男の『遠野物語』と釜石は井上ひさしが『花石物語』を書いている。大槌まで延びると『吉里吉里人』『ひょっこりひょうたん島』があり、ドイツのメルヘン街道になぞらえて、何とかそこを観光地に結ぼうということをやっている先生が仙台にいる。
- ・実は宮沢賢治が明治29年の津波の後に生まれて、昭和8年の3月の津波の後に亡くなっている。最後の『銀河鉄道の夜』を賢治は沢山書き直しているが、希望を持たせるように書き直している途中で亡くなった。賢治がそういう震災直後の思いをそこに書き直していることが知れ渡れば、文学という一つの芸術を通して、もう一度、震災を見直す機会がきっと出てくると思う。

阿部

- ・三陸沿岸を巡行している、国の指定でもある黒森神楽が、宿が大きな被害を受けているということで、また、地域の被災している方がほとんど仮設住宅に入っているため、その仮設の現場で、公演を行った。今年は南回りで釜石の宝来館という1階が被災した宿で公演を行った。地域の人に楽しんでいただくのと同時に、黒森神楽の宿が被災して減少しているということに対する歯止めとして、宿を提供する（泊める）という、2つの効果を考えている。
- ・黒森が来ることを今まで一度も返したことがない。「返す」というのは、神様を冒瀆することとなり、ある意味罰当たりである。そういう漁師としての信仰心に基づいて巡業がなされている中で、この震災を通して、それでも彼らが巡業を続けているということに感銘を受ける。
- ・この2年間で、民俗芸能は本当にみごとに復活している。しかし、復活して喜んでいるかと思うと、不安のほうの方が逆に大きい。物理的な復興には、絶対に時間がかかるため、心のケアとか、テンションを保つ、頑張ろうという気持ちを維持するために文化芸術というものが大きな役割を果たすと思う。
- ・復興計画の議論でも、どこまで復興計画に対して地元の芸能団体、芸術団体関わっていたのかというのが全然見えない。計画というのは、あくまでもベースはやる人たちなのであって、行政が押しつけるものではないはずだ。山田町の復興計画に文化についての記述が出ないのは、住民が計画づくりに関わっていないからではないか。“民間でもこういうこ

とをやりたい”という声を上げられる環境づくりも大事である。

大和

- ・去年も宿の支援をやっているが、あれは東京都がかんでいたのか、確認したい。

阿部

- ・鵜鳥神楽さんは、2012年1月に東京都歴史文化財団が支援して巡行を行った。今回、鵜鳥神楽さんも、大槌町の赤浜公民館が自主的に呼んで公演した。本来、南廻りじゃないので巡行はできないが、地域の人が神楽を観たかったようだ。
- ・もう1つは橋本裕之先生が中心となって、鵜鳥神楽の宿が釜石の白浜にあるので芸能公演をそこで行う様だ。

佐々木

- ・震災前は教育委員会が主催となって「郷土芸能発表会」を3団体くらいずつが出演して行っていた。震災直後は優先順位が下がってしまいそういうことが出来なくなった。震災後の9月のお祭りは、若者たちが結集して、祭りを行った。それは復興の大きな力となった。町の復興計画を作る際に、やはり欠落をするのはその観点だった。お祭りだというと、御神輿が渡御する。御旅所があちこちにあり町の中を練り歩く。これから盛り土をすると、もとの通りには動けない。
- ・もともと漁師のまちで、船でもって海上渡御をする。今は護岸になってしまったために、そういった昔の祭りすらも行われていない。だから、せめてまちを復興するにあっては、御神輿がどういうルートを通るかなど過去の歴史のことを踏まえるべきだが、そういうことの認知が低い。

阿部

- ・言ってくるものを素直にパッパッと処理できる能力がない。結局は、つぶれていったものが沢山ある。大船渡の芸能協会も、お手伝いして計画を作ったが、一昨年の5月だったため、受けられる状況になく、結局できなかった。文化関係はどうしても最後のほうになるというので、市民や住民が望んでいることもなかなか素直に受けられない。私以外の芸能団体、芸術団体、文化団体も、おそらくそういう思いを持っているのではないかと思う。

松野

- ・陸前高田市の復興計画には、「けんか七夕」「うごく七夕」ロードの整備についての計画が記載されている。

大和

- ・昨日、宮古市の文化会館の視察をされて、本杉先生から何かあるか。

本杉

- ・宮古市のホールも震災から2年が経つが、舞台の下には水がまだ溜まって、まだ実施設計段階であった。
- ・時間がかかっている理由は、正直に復旧のプロセスをトレースしているからである。被害のあった箇所を全部図面上に書き入れなければならし、その箇所がどこであるのかということ丁寧に図面上に表示しなければならない。
- ・工事で今後1年程度かかるだろう。会館の指定管理者も解散してしまっている。
- ・補助金も工事が終わってから出るため、自治体がある程度、お金を持っていなければ工事

が出来ない。復旧、修復するためのプロセスに、どのように周りの支援が連携できるかというの大きな課題ではないかと思う。

澤内

- ・今の先生のお話を聞くと、新規に設計したほうが安いのではないかという気もするが。

本杉

- ・そんなことはないと思う。しかし、プロセスと内容は、何とかできないのかとは思う。

佐々木

- ・大槌にはこれまで文化会館や、博物館がなく、今回、大槌に文化会館を作りたいという動きがあるが、結果的に維持費のことを考えるとなかなか踏み出せない。いずれにしても、どう運営するか。今は震災特需みたいな格好で様々なことが動いているからいいが、あと5年先、10年先にそれがどう運営されるかということを見ると、若干、疑問視する。
- ・話を戻して、参考となる事例の中に加えてほしいのが3つある。1つは、図書館の活動で、いわて絵本カープロジェクト。子供たちに絵本を配る活動である。子どもたちに本を選ばせるという環境が震災直後にすぐ動いたことは非常に有難いことだった。2つ目は、岩手県内の大学が連携をして、博物館も連携をして、被災地の文化財がどうなっているかの調査を、市町村レベルの指定にすらなっていない文化財も含めて、行っている。例えばうちには「大槌町史」というのがあるが、その中に様々なものが掲載されている。3つ目は、大槌に特化したイトヨ調査。文化財、自然も含めて誰かが目を向けていかないと、まちの中の湧水がだめになっていく。

大和

- ・大学連携は？

佐々木

- ・盛岡大学と事務局は岩手大学だったと思うが、県内の大学が全て連携して、そこに博物館も絡んでいる。

大和

- ・釜石も文化会館の再建を控えていると思うが、このことについてご報告願いたい。

和田

- ・従来の災害復旧という考え方でいくとほぼ全額を国で出すことになるが、釜石の場合は移転せざるを得ないため、災害復旧に要する費用だけを充てて建設するよう、現在災害査定を受けるための設計をしている。その設計についても相当な金額を投じてするが、国からお金をもらうための算段の処置であって、新しい施設の検討はまだ進んでおらず具体的な再建のめどはついていない。また、実際に再建する費用についても、残り3分の2とか4分の3とかは、自治体もつこととなる。
- ・市民の方々の税金が使われることも、復旧にはかなりの時間が要するということもあるため、今後の文化活動の復興に向けては事務的にも金銭的にも無理な面がある。
- ・現在の制度に則って復旧することが国の方針であるが、本当にそれが正しい制度なのかどうかということをどこかで検証しなければ、次に起こり得る災害に教訓として生かすことができないものではないかと考えている。

5. 協議のまとめとコンソーシアムの今後のあり方について

渡辺（一）

- ・コンソーシアムの全体状況として、現地、被災地と直接つながるということを当初から企図して、ホームページ等々、情報手段を駆使しているが、いまいち血の流れが悪いという、現象を来している。
- ・前回、皆様方からは、コンソーシアムの役割とか組織、活動等の中身が十分つかめないと話が出ていた。
- ・コンソーシアムは、国の伝達機関では決してないと、頭を切りかえていただき、使いづら
いのであれば、使いやすくするように、ぜひ建設的なご意見をいただきたい。

終了